



Vol.103

さい帯血情報

さい帯血情報

2018年11月3日（土）、高知大学が実施している、
 ステムセル研究所の保管者のさい帯血を用いた臨床研究の
 中間報告会が開催され、その内容が報道されました。

高 知 大 学 報 告

高知大臍帯血治療が効果

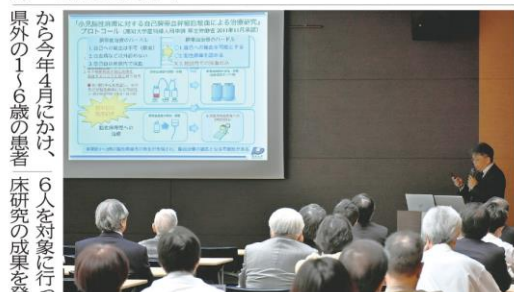
脳性まひ児「運動機能が改善」

臨床研究中間報告

脳性まひの子どもの臍帯血を輸血し、脳機能を回復させる研究に取り組む高知大学医学部（南国市岡豊町小蓮）が3日、高知市内で講演会を開き、患者6人を対象に昨年からは行っている臨床研究の中間報告を行った。研究チームは「運動機能が改善したほか、コミュニケーション能力にも改善の兆が見られた」と成果を強調した。（山本 仁）

脳性まひは妊娠中から、リハビリなどのまひの治療に使う方法から生後1カ月までの間、対症療法しかなく、根は、2005年に米国から生じた脳に受けた損傷による。本格的な治療法はない。テュークスで開発されたウスを使った基礎研究で生じる疾患で、動 臍帯血は、母親と胎児が詳しいメカニズムを承認を受け、昨年からは、歩けないなど、児を結ぶへその緒と胎児が詳しいメカニズムを承認を受け、昨年からは、2人の割合で発症する血液。臍帯血を脳性まひに使う方法。高知大は09年からマウスの研究に始まり、2015年に臨床研究に着手。厚生労働省の承認を受け、昨年からは、国内初の臨床研究に取組んでいる。

この日は、昨年4月



臍帯血治療の成果について講演する高知大の研究チーム（3日午後、高知市知寄町2丁目の「ちより街テラス」）

6人中4人は輸血後、マウスに輸血した臍帯血の幹細胞が脳の損傷が見られた。自立歩行部分の周辺に多く集まることができ、神経細胞の本来の再生能力を高めていく可能性を報告した。

また、ほとんどの患者の家族が言語や意思疎通などの能力の高まりを感じたという。「患者には副作用がない」と、世界トップレベルの研究。もっと詳しく研究し、治療法として使いたい」と強調した。

患者6人は全員退院しており、研究チームが3年間にわたって経過観察を続ける。

2018年（平成30年）11月4日



厚生労働省医政局開発推進課
 再生医療等提供計画（中間報告）



臍帯血幹細胞治療の基礎と臨床 ～脳性麻痺疾患治療はどこまで解明されたか～

日時：2018年11月3日（土）13:00~15:00
 会場：ちより街テラス3階ちよテラホール
 （高知市知寄町2丁目1-37 ※無料駐車場あり）

入場無料

- 総司会 - 高知大学医学部附属先端医療学推進センター 相良 祐輔
 名誉センター長

講演1【基礎】

「臍帯血は体内でどのように作用して効果をあげているのか」

- 演者 - 高知大学医学部産科婦人科学講座 教授 前田 長正

講演2【臨床】

「臍帯血治療の効果と今後の期待」

- 演者 - 高知大学医学部小児思春期医学講座 教授 藤枝 幹也

主催 高知大学医学部附属先端医療学推進センター

共催 高知県医師会

高知県小児科医会 日本小児科学会高知地方会

高知県産婦人科医会 高知産科婦人科学会

後援 公益社団法人高知県看護協会 高知大学医学部産科婦人科学教室滴水会

事務局 高知大学医学部附属先端医療学推進センター臍帯血研究班

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 電話番号 088-880-2383（産科婦人科教室内）

臨床研究の名称

『小児脳性麻痺など脳障害に対する自家臍帯血単核球細胞輸血—細胞バンクで保管されている自家臍帯血単核球細胞を用いた輸血の安全性研究—』
 (UMIN試験ID: 000024852)

さい帯血を用いた再生医療は、自閉症や新生児低酸素性虚血性脳症等の治療についても研究が進められています。

ステムセル研究所は、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」を遵守し活動しています。